

(様式第10)

岡大病総第134号  
平成26年10月1日

厚生労働大臣

殿

岡山大学病院  
病院長 榎野博

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
氏 名	国立大学法人岡山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

岡山大学病院
--------

3 所在の場所

〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目5番1号 電話(086)223-7151
---

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 消化器内科 2 神経内科 3 循環器内科 4 5 6 7	
8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 消化管外科 2 肝・胆・膵外科 3 小児外科 4 心臓血管外科 5 形成外科 6	
7 8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科
8 産科 9 婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13 放射線診断科
14 放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 矯正歯科 2 小児歯科 3 歯科口腔外科 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 小児神経科 2 病理診断科 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
34床	2床	1床	1床	813床	849床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	280人	344人	531.5人	看護補助者	40人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	100人	153人	192.5人	理学療法士	26人	臨床検査技師	73人
薬 剤 師	67人	0人	67人	作業療法士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	6人	その他	2人
助 産 師	29人	1人	29.7人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	944人	32人	1011.9人	臨床工学技師	26人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	17人	0人	17人	歯科技工士	8人	事務職員	350人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	48人	その他の職員	20人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	20人	眼科専門医	9人
外科専門医	39人	耳鼻咽喉科専門医	13人
精神科専門医	12人	放射線科専門医	11人
小児科専門医	21人	脳神経外科専門医	9人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	22人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	21人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	6人
		合 計	216人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	655.7 人	21.4 人	677.1 人
1日当たり平均外来患者数	1,856.9 人	670.1 人	2,527 人
1日当たり平均調剤数		1,061.3 剤	
必要医師数		174.8	人
必要歯科医師数		37	人
必要薬剤師数		23	人
必要(准)看護師数		425	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	m <sup>2</sup> 1,161.6	鉄筋コンクリート	病床数	60 床	心電計	○・無
			人工呼吸装置	○・無	心細動除去装置	○・無
			その他の救急蘇生装置	○・無	ペースメーカー	○・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 234.5 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 — 台		病床数	25 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 40.5 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名 —					
化学検査室	m <sup>2</sup> 275	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置, 自動免疫測定装置 他			
細菌検査室	m <sup>2</sup> 120	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物分類同定分析装置, 感受性測定装置, 孵卵器 他			
病理検査室	m <sup>2</sup> 197	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, ミクロトーム 他			
病理解剖室	m <sup>2</sup> 108	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台, 大型電気ノコ 他			
研究室	m <sup>2</sup> 4,806	鉄筋コンクリート	(主な設備) ドラフトチャンバー, クリーンベンチ, 冷蔵庫, 冷凍庫, 中央実験台 他			
講義室	m <sup>2</sup> 1,264	鉄筋コンクリート	室数 7 室		収容定員 1,043 人	
図書室	m <sup>2</sup> 1,938	鉄筋コンクリート	室数 11 室		蔵書数 263,730 冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	61.6 %	逆紹介率	59.8 %
算出根拠 A: 紹介患者の数		19,540 人	
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		19,550 人	
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		599 人	
D: 初診の患者の数		32,676 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
IL28B遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	0人
硬膜外内視鏡による難治性腰下肢痛の治療	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ペムトレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法	2人
経皮的乳がんラジオ波焼灼療法	3人
慢性心不全に対する和温療法	0人
急性心筋梗塞に対するエボエチンベータ投与療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	生体部分肺移植	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式である。			
医療技術名	生体部分肝移植	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	48人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	31人	・広範脊柱管狭窄症	10人
・重症筋無力症	55人	・原発性胆汁性肝硬変	54人
・全身性エリテマトーデス	136人	・重症急性膵炎	4人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	54人
・再生不良性貧血	36人	・混合性結合組織病	19人
・サルコイドーシス	68人	・原発性免疫不全症候群	6人
・筋萎縮性側索硬化症	37人	・特発性間質性肺炎	29人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	90人	・網膜色素変性症	20人
・特発性血小板減少性紫斑病	30人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	41人	・肺動脈性肺高血圧症	31人
・潰瘍性大腸炎	162人	・神経線維腫症	25人
・大動脈炎症候群	16人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	12人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	2人
・天疱瘡	19人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	12人
・脊髄小脳変性症	24人	・ライゾゾーム病	2人
・クローン病	79人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	3人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	14人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	194人	・球脊髄性筋萎縮症	6人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	9人
・後縦靭帯骨化症	54人	・肥大型心筋症	9人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	42人	・ミトコンドリア病	5人
・ウェゲナー肉芽腫症	11人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	8人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	48人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	25人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	1人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	109人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。



(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算
・歯科外来診療環境体制加算	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・特定機能病院入院基本料	・救命救急入院料
・臨床研修病院入院診療加算	・特定集中治療室管理料
・救急医療管理加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・超急性期脳卒中加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・妊産婦緊急搬送入院加算	・小児入院医療管理料2
・診療録管理体制加算	・短期滞在手術基本料2
・急性期看護補助体制加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科リエゾンチーム加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・人工膵臓
・がん患者カウンセリング料	・皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・外来放射線照射診療料	・コンタクトレンズ検査料1
・ニコチン依存症管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・地域連携診療計画管理料	・内服・点滴誘発試験
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算1
・がん治療連携管理料	・画像診断管理加算2
・認知症専門診断管理料	・歯科画像診断管理加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・遠隔画像診断
・薬剤管理指導料	・CT撮影及びMRI撮影
・医療機器安全管理料1	・冠動脈CT撮影加算
・医療機器安全管理料2	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・心臓MRI撮影加算
・歯科治療総合医療管理料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・外来化学療法加算1
・HPV核酸検出	・無菌製剤処理料
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)
・遺伝カウンセリング加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・植込型心電図検査	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・がん患者リハビリテーション料	・補助人工心臓
・集団コミュニケーション療法料	・同種心移植術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的動脈遮断術
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・ダメージコントロール手術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・体外衝撃波胆石破砕術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・う蝕歯無痛的窩洞形成加算	・生体部分肝移植術
・歯科技工加算	・同種死体肝移植術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下腭体尾部腫瘍切除術
・人工乳房及び組織拡張器(乳房)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・自家培養軟骨	・体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。 )及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・人工内耳植込術	・同種死体腎移植術
・人工内耳植込術(植込型骨導補聴器の植え込み及び接合子付骨導端子又は骨導端子を交換した場合)	・生体腎移植術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・膀胱水圧拡張術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・同種死体肺移植術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・生体部分肺移植術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・輸血管理料Ⅱ
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・内視鏡手術用施設機器加算
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極拔去術(レーザーシースを用いるもの)	・歯周組織再生誘導手術
・両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーカー機能付き植込型除細動器交換術	・手術時歯根面レーザー応用加算
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術

(様式第2)



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・インプラント義歯	・
・超音波骨折治療法	・
・先天性難聴の遺伝子診断	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。  
 (注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

### 8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	①. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ②. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	<b>【病理診断部門】</b> ・剖検症例検討会 月1回程度 ・消化器内科＋消化管外科とのカンファレンス 週1回程度 ・乳腺・内分泌外科とのカンファレンス 年4回程度 ・脳神経外科との脳腫瘍カンファレンス 月1回程度 ・婦人科との婦人科腫瘍カンファレンス 週1回程度 ・頭頸部がんサーボード 週1回程度 ・消化器内科との肝・胆道系カンファレンス 月1回程度 ・皮膚病理カンファレンス 週1回程度 <b>【臨床検査部門】</b> ・総合内科との症例検討会 月1回程度
剖 検 の 状 況	剖検症例数 28 例 / 剖検率 16.9 %

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 1 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
BMPネットワークにより形成される卵胞機能制御の新たなパラダイムの解明	大塚 文男	総合内科	千円 800	補 委 文部科学省科学研究費補助金
網羅的なゲノム解析によるテラーメイド腫瘍抗原の同定	近藤 英生	総合内科	1,800	補 委 文部科学省科学研究費補助金
一次繊毛機能を介したACAM/CLMPの脂肪細胞分化と肥満症における意義	村上 和敏	総合内科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
肺気腫におけるRAGEの役割の検討	早稲田 公一	総合内科	700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
FRET法を利用した新規不安定プラーク特異的動脈硬化診断法の開発	小川 弘子	総合内科	1,900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
生殖内分泌調節におけるGH/IGF-I系の役割とBMPの関与	中村 絵里	総合内科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
同種造血幹細胞移植後の効率的免疫寛容の誘導法の開発	谷本 光音	血液・腫瘍内科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金
同種造血細胞移植後閉塞性細気管支炎の早期診断	藤井 伸治	輸血部	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
制御性T細胞恒常性を標的とした低用量IL-2による慢性移植片対宿主病治療	松岡 賢市	血液・腫瘍内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	槇野 博史	腎臓・糖尿病・内分泌内科	54,175	補 委 厚生労働科学研究費補助金
BMP-4に着目したメラトニン受容体刺激によるACTH/PRL分泌抑制機序の検討	山内 尚子	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費補助金
間脳下垂体機能障害による卵巣機能への影響とその分子機序の検討	中村 絵里	腎臓・糖尿病・内分泌内科	1,600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
遺伝性不整脈疾患の遺伝子基盤に基づいた病態解明と診断・治療法の開発に関する研究	森田 宏	循環器内科	1,500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
加算微分fQRSを用いた新しい心臓突然死リスク予測法	森田 宏	循環器内科	700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
腹部大動脈瘤におけるCD44の分子病態制御機構の解明と新たな治療法の基礎確立	三好 亨	循環器内科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金
J波症候群の病態と遺伝基盤の解明および治療法の確立	永瀬 聡	循環器内科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
KCNH2(HERG)電流活性化因子の同定と作用の検討	中村 一文	循環器内科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 17件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 2 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
筋萎縮性側索硬化症の分子病態解明と新たな治療法開発研究	阿部 康二	神経内科	千円 6,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
神経疾患の病態解析に有用な新たな in vivo分子イメージング法の確立	阿部 康二	神経内科	1,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
認知記憶の脳機能ネットワークの解明と認知症の早期臨床診断システムの創造	阿部 康二	神経内科	700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
認知症早期診断の海外調査と標準化技術の研究開発および臨床実験による国際基準の提案	阿部 康二	神経内科	350	補 委 文部科学省科学研究費補助金
軸索伸張関連因子発現制御による新しい脳保護療法と神経再生医療	出口 健太郎	神経内科	1,500	補 委 文化科学省科学研究費補助金
新規誘導方で樹立された神経幹細胞は脳梗塞を治療しうるか？	山下 徹	神経内科	2,100	補 委 文化科学省科学研究費補助金
希少性難治性疾患患者に関する医療の向上及び患者支援のあり方に関する研究	阿部 康二	神経内科	600	補 委 厚生労働科学研究費補助金
神経変性疾患に関する調査研究	阿部 康二	神経内科	3,300	補 委 厚生労働科学研究費補助金
スモンに関する調査研究	阿部 康二	神経内科	800	補 委 厚生労働科学研究費補助金
プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究	阿部 康二	神経内科	1,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	阿部 康二	神経内科	700	補 委 厚生労働科学研究費補助金
病態に根ざしたALSの新規治療法開発	阿部 康二	神経内科	1,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
CADASIL脳梗塞発症に対する塩酸ロメリジンの予防効果の研究	阿部 康二	神経内科	500	補 委 厚生労働省創薬基盤推進研究事業
遺伝性白質脳症の診断ガイドライン作成と自然歴解明	阿部 康二	神経内科	1,000	補 委 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
難治性固形癌に対する腫瘍選択的融解ウイルスTelomelysinを用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究	藤原 俊義	消化管外科	65,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
がん研究の今後のあり方に関する研究	藤原 俊義	消化管外科	200	補 委 厚生労働科学研究費補助金

小計 16件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 3 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
進行・再発膵癌に対する新規エビトープペプチドカクテル療法と標準化学療法との併用効果を検討する多施設共同第I/II相臨床試験	藤原 俊義	消化管外科	千円 1,000	補 委	厚生労働科学研究費補助金
ゲノムワイド関連解析を用いた革新的な肝移植後肝炎ウイルス再感染予防・治療法の確立	藤原 俊義	消化管外科	500	補 委	厚生労働科学研究費補助金
消化器癌に対する細胞内侵入活性を有する免疫細胞をキャリアとするウイルス療法の開発	藤原 俊義	消化管外科	9,620	補 委	文部科学省研究費補助金
上皮間葉転換を生じた血中循環癌細胞の蛍光イメージングによる選択的捕獲と遺伝子解析	藤原 俊義	消化管外科	2,470	補 委	文部科学省研究費補助金
転移メカニズムにおける循環血液中がん微小環境の解明と新規癌治療法の開発	白川 靖博	消化管外科	2,990	補 委	文部科学省研究費補助金
蛍光発現ウイルスを用いた血中循環がん細胞の分離による高感度遺伝子解析技術の開発	香川 俊輔	消化管外科	1,300	補 委	文部科学省研究費補助金
癌抑制遺伝子FHITのPKC制御による膵癌の浸潤・転移抑制効果の研究	西崎 正彦	消化管外科	390	補 委	文部科学省研究費補助金
メチル化DNAをバイオマーカーに用いた非侵襲的がん総合検診パラダイムの構築	永坂 岳司	消化管外科	3,640	補 委	文部科学省研究費補助金
がん選択的生物製剤を用いた早期大腸癌の超低侵襲治療の開発	岸本 浩行	新医療研究開発センター	1,300	補 委	文部科学省研究費補助金
がん微小環境における癌関連線維芽細胞を標的とした新たな癌治療法の開発	野間 和広	卒後臨床研修センター	1,690	補 委	文部科学省研究費補助金
乳がんのホルモン治療に対するサロゲートマーカーIHC-Ki67の妥当性の検討	岩本 高行	消化管外科	1,820	補 委	文部科学省研究費補助金
陽イオンリポソームを用いた全身投与可能な腫瘍選択的増殖型アデノウイルス製剤の開発	黒田 新士	消化管外科	1,430	補 委	文部科学省研究費補助金
消化器癌に対する分子標的光免疫治療Photoimmunotherapy	田邊 俊介	消化管外科	2,080	補 委	文部科学省研究費補助金
血清鉄調節を利用したがん微小環境制御による画期的な分子標的治療の効果増強法の開発	大原 利章	消化管外科	1,560	補 委	文部科学省研究費補助金
KRAS/BRAF変異大腸癌に対するマイクロRNAを利用した新規治療法の開発	田澤 大	消化管外科	1,300	補 委	文部科学省研究費補助金

小計 15件



(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 4 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
臓器移植におけるRAGEリガンドを介した新たな免疫制御システムの確立	貞森 裕	肝・胆・膵外科	千円 650	③ 委 文部科学省研究費補助金
DAMP複合体をターゲットとした外科侵襲時の新たな臓器障害制御システムの開発	篠浦 先	肝・胆・膵外科	2,340	③ 委 文部科学省研究費補助金
新規薬物療法の開発を含めた進行再発大腸癌の治療戦略構築	榎田 祐三	臓器移植医療センター	3,200	③ 委 文部科学省研究費補助金
小腸不全症の治療法—小腸化大腸の効率的作製のための研究	野田 卓男	小児外科	1,950	③ 委 文部科学省研究費補助金
エクスプラント心由来の自己幹細胞移植による新たな心臓移植後の拒絶緩和療法の開発	新井 禎彦	心臓血管外科	1,200	③ 委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト人工心筋細胞の純化精製と機能的心臓の三次元再構築	王 英正	新医療研究開発センター	1,400	③ 委 文部科学省科学研究費補助金
希少難治性心疾患由来iPS細胞を用いた左心低形成症候群の予後因子の解明に関する研究	王 英正	新医療研究開発センター	9,000	③ 委 厚生労働科学研究費補助金
小児心不全に対するヒト幹細胞移植による先進医療の実用化加速に向けた第2層臨床研究	王 英正	新医療研究開発センター	40,000	③ 委 厚生労働科学研究費補助金
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	尾崎 敏文	整形外科	300	③ 委 厚生労働科学研究費補助金
microRNA 阻害剤による骨肉腫がん幹細胞制御を基盤とした新たな革新的がん治療の実用化を目指す前臨床試験	尾崎 敏文	整形外科	2,000	③ 委 厚生労働科学研究費補助金
多関節障害重症RA患者に対する総合的関節機能再建治療	西田 圭一郎	整形外科	500	③ 委 厚生労働科学研究費補助金
我が国における関節リウマチ治療の標準化に関する多層的研究	西田 圭一郎	整形外科	900	③ 委 厚生労働科学研究費補助金
マウスリンパ浮腫モデルに対する培養リンパ管内皮細胞移植の有用性に関する研究	木股 敬裕	形成外科	1,500	③ 委 文部科学省科学研究費補助金
性間生殖臓器移植における細胞導入の解析	難波 祐三郎	形成外科	2,200	③ 委 文部科学省科学研究費補助金
MDCTを用いた間質リンパ管造影による四肢リンパ管のイメージング	山田 潔	形成外科	1,900	③ 委 文部科学省科学研究費補助金
リンパ浮腫に対する埋込型ポンプを用いたリンパ管—腹腔シャントの有効性に関する研究	杉山 成史	形成外科	1,700	③ 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 16件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 5 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
Induced Membrane法の脂肪移植での臨床応用に向けた基礎的研究	中桐 僚子	形成外科	千円 1,600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
新しい自己集合性ペプチドゲルを用いた3次元全層皮膚ストレッチ培養に関する研究	徳山 英二郎	形成外科	600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ラットリンパ浮腫モデルにおけるリンパ管再生の経時的変化	松本 久美子	形成外科	1,400	補 委 文部科学省科学研究費補助金
骨内微小環境を再現した新規顔面骨組織再建法の確立	渡部 聡子	形成外科	1,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ト静脈角の生理学を利用した新たなリンパ管静脈吻合術の開発	山口 憲和	形成外科	500	補 委 文部科学省科学研究費補助金
EBウイルス感染リンパ球の再活性化が誘発する宿主免疫応答と皮膚病変の解明	岩月 啓氏	皮膚科	1,690	補 委 文部科学省科学研究費補助金
稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究	岩月 啓氏	皮膚科	70,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
難治性血管炎に関する調査研究	岩月 啓氏	皮膚科	800	補 委 厚生労働科学研究費補助金
がん登録からみたがん診療ガイドラインの普及効果に関する研究—診療動向と治療成績の変化—	岩月 啓氏	皮膚科	150	補 委 厚生労働科学研究費補助金
HTLV-1キャリア・ATL患者に対する相談機能の強化と正しい知識の普及の促進	岩月 啓氏	皮膚科	150	補 委 厚生労働科学研究費補助金
尋常性天疱瘡の分子病態・シグナル伝達解明とデスモソームの制御機構	青山 裕美	皮膚科	650	補 委 文部科学省科学研究費補助金
皮膚におけるバントンバレンタインロイコジンの発現機構と病態形成の解明	山崎 修	皮膚科	910	補 委 文部科学省科学研究費補助金
感染型MRSA皮膚感染症におけるPanton-Valentine型ロイコジンの伝播様式と治療戦略	山崎 修	皮膚科	810	補 委 文部科学省特別経費
HDAC阻害剤の併用療法のターゲットとしてのHS70の可能性の探究	藤井 一恭	皮膚科	1,560	補 委 文部科学省科学研究費補助金
Th2環境で誘導されるカリクレイン7の過剰発現が表皮バリアに与える影響	森実 真	皮膚科	1,950	補 委 文部科学省科学研究費補助金
慢性炎症性皮膚疾患におけるセリンプロテアーゼ阻害因子の発現とその制御機構	森実 真	皮膚科	1,000	補 委 日本皮膚科学会基礎医学研究費
末梢血を循環するメラノーマ幹細胞の解析	高田 実	皮膚科	1,950	補 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 17件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 6 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
AMPキナーゼの活性化による網膜色素上皮細胞の老化防止: 加齢黄斑変性治療への展開	森實 祐基	眼科	千円 1,690	補 委 文部科学省科学研究費補助金
外眼筋の固有感覚の生理学的包括的研究	濱崎一郎	眼科	1,560	補 委 文部科学省科学研究費補助金
REIC/Dkk-3遺伝子治療による自己癌ワクチン化療法の基盤解析	公文 裕巳	泌尿器科	4,600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
難治性固形がん(悪性胸膜中皮腫、前立腺がん)に対する次世代自己がんワクチン化学療法としてのREIC/Dkk-3遺伝子治療臨床研究	那須 保友	泌尿器科	28,500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
パーキンソン病に対するカプセル化神経幹細胞移植: post-D BS時代を見据えて	伊達 勲	脳神経外科	4,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
脳血管障害研究の新展開【脳血管障害とCCNファミリー分子CYR61】	伊達 勲	脳神経外科	900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
Gliomaの新規予後因子CYR61及びMGMTに関する分子生物学的検討	杉生 憲志	脳神経外科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金
悪性グリオーマにおける血管新生-浸潤シフトの分子生物学的機構の解明	市川 智継	脳神経外科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
悪性グリオーマに対する腫瘍溶解性ウイルスと抗血管新生薬との併用療法についての検討	黒住 和彦	脳神経外科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金
電気刺激は移植細胞の遊走能を高めるか?: メカニズムに迫り、臨床応用への道を探る	安原 隆雄	脳神経外科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
脳動脈瘤破裂くも膜下出血後急性期における拡張性抑制の影響に関する検討	菱川 朋人	脳神経外科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金
電気刺激が脳梗塞に及ぼす影響 -再生医療の観点から	亀田 雅博	脳神経外科	1,200	補 委 文部科学省科学研究費補助金
特発性正常圧水頭症の病因・病態と診断・治療に関する研究	伊達 勲	脳神経外科	500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第III相臨床研究	伊達 勲	脳神経外科	500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
治験の実施に関する研究 [ONYX]	杉生 憲志	IVRセンター	200	補 委 日本医師会治験推進研究事業補助金
急性肝不全における新たな早期酸化ストレスマーカーNrf2	清水 裕子	麻酔科蘇生科	1,400	補 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 16件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 7 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
硬膜外超音波を用いた脊椎関連疾患の診断治療の探索的研究	石川 慎一	麻酔科蘇生科	千円 1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
遺伝子多型ペースメーカーチャンネルによる細胞内伝達抑制を用いた慢性痛遺伝子治療	賀来 隆治	麻酔科蘇生科	1,600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
オンデマンド・バーチャルリハビリ鏡治療の難治性疼痛治療への応用	佐藤 健治	周術期管理センター	300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ゲノムインフォマティクスを応用した難治性慢性痛における中枢機能の客観的評価	西江 宏行	麻酔科蘇生科	500	補 委 文部科学省科学研究費補助金
iPS細胞を用いた急性呼吸窮迫症候群治療への挑戦	林 真雄	麻酔科蘇生科	1,500	補 委 文部科学省科学研究費補助金
アデノ随伴ウイルスベクターを用いた神経障害性痛に対する遺伝子治療	小幡 典彦	麻酔科蘇生科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
バーチャル解剖シミュレーターを用いた神経ブロックに必要な解剖的教育	武田 吉正	集中治療部	500	補 委 文部科学省科学研究費補助金
糖尿病患者の周術期血糖変動に関する研究	江木 盛時	集中治療部	2,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
MEKを標的とする化学修飾フラボノイドによる神経障害性痛治療薬の開発	松岡 義和	集中治療部	900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
重症骨系統疾患の予後改善に向けての集学的研究	長谷川 高誠	小児科	3,500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
骨形成不全症の診断、重症度判別における尿中骨代謝マーカーの有用性の確立	長谷川 高誠	小児科	1,040	補 委 文部科学省科学研究費補助金
小児危急・難治疾患の生体応答解析と治療的介入	塚原 宏一	小児科	1,950	補 委 文部科学省科学研究費補助金
重症のインフルエンザによる肺炎・脳症の病態解析・診断・治療に関する研究	塚原 宏一	小児科	1,500	補 委 厚生労働科学研究費補助金
小児とAYA世代の増殖性血液疾患の診断精度向上と診療ガイドラインの改訂のための研究	嶋田 明	小児科	3,000	補 委 厚生労働科学研究費補助金
希少難治性てんかんに関する調査研究	小林 勝弘	小児神経科	900	補 委 厚生労働科学研究費補助金
てんかんの有病率等に関する疫学研究及び診療実態の分析と治療体制の整備に関する研究	小林 勝弘	小児神経科	400	補 委 厚生労働科学研究費補助金
脳形成異常を主とする発達期脳障害の病因・病態と治療に関する研究	小林勝弘	小児神経科	1,000	補 委 精神・神経疾患研究委託費

小計 17件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

( 8 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
プリオン病および遅発性ウイルス感染症に関する調査研究	吉永 治美	小児神経科	千円 300	③ 厚生労働科学研究費補助金
経皮的治療IVRに関する研究	金澤 右	放射線科	1,000	補 ③ がん研究開発費
CT透視下針穿刺用ロボットの開発:術者被爆のない手技へ	平木 隆夫	放射線科	4,940	③ 文部科学省科学研究費補助金
血管奇形に対する冷凍療法についての第I/II相臨床試験	藤原 寛康	放射線科	4,290	③ 文部科学省科学研究費補助金
新型インフルエンザ等を起因とする急性呼吸窮迫症候群(ARDS)に対する体外式膜型人工肺(ECMO)療法の治療成績向上のためのシステム構築	氏家 良人	救急科	9,000	③ 厚生労働科学研究費補助金
新型成人用HFO人工呼吸器の開発及びARDS患者向けHFO呼吸管理プロトコルの開発	市場 晋吾	救急科	577.5	補 ③ 公益財団法人埼玉県産業振興公社
人工筋肉を用いた麻痺手を動かすシステムの実用化に関する研究	千田 益生	総合リハビリテーション部	1,950	③ 文部科学省科学研究費補助金
メタアナリシスの手法による筋層非浸潤性膀胱癌術後再発リスク分類日本版の作成	樋之津 史郎	新医療研究開発センター	5,200	③ 文部科学省科学研究費補助金
歯周病原細菌の感染と歯科インプラントの安全性に関するコホート研究	高柴 正悟	歯周科	1,950	③ 文部科学省科学研究費補助金
ペプチド核酸による歯周病原細菌除去療法の確立	前田 博史	歯周科	1,040	③ 文部科学省科学研究費補助金
歯周組織の細胞周期アトラスの作製	山本 直史	歯周科	1,300	③ 文部科学省科学研究費補助金
口腔内感染度からみたビスフォスフォネート系薬剤関連顎骨壊死の予防システムの構築	畑中 加珠	歯周科	1,430	③ 文部科学省科学研究費補助金
歯周病細菌に対する血中抗体価検査のインプラント周囲炎発症予知の有用性に関する検討	工藤 値英子	歯周科	1,560	③ 文部科学省科学研究費補助金
根尖性歯周炎に対するIL-1 $\alpha$ /ラミニンを用いた新規治療法の開発	大森 一弘	歯周科	1,430	③ 文部科学省科学研究費補助金
唾液腺性幹細胞とiPS細胞を用いた唾液腺機能再生に関する研究	峯柴 淳二	歯周科	1,690	③ 文部科学省科学研究費補助金
歯肉上皮細胞におけるTGF- $\beta$ による細胞接着因子制御の分子生物学的解明	山城 圭介	歯周科	1,300	③ 文部科学省科学研究費補助金

小計 16件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

( 9 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
人工・天然抗菌物質を組み合わせた口腔感染制御システムの新規開発	伊東 孝	歯周科	千円 1,430	補 委 文部科学省科学研究費補助金
岡山県産の原料を活かした新しい口腔ケア製品の開発	高柴 正悟	歯周科	3,635	補 委 特別電源所在県科学技術振興会
BMP-2の環境選択的な骨誘導/抑制メカニズムの解明および適応症の探索	縄稚 久美子	クラウンブリッジ補綴科	1,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
PET-CTによる5-HT神経系と睡眠時ブラキシズム発症メカニズムとの関連性解明	黒井 隆太	クラウンブリッジ補綴科	1,400	補 委 文部科学省科学研究費補助金
TNF- $\alpha$ による歯髄細胞の幹細胞化に着目した象牙質再生機序の解明	上枝 麻友	クラウンブリッジ補綴科	1,000	補 委 文部科学省科学研究費補助金
インプラント周囲炎の生物学的病態解明と予防的診断プロトコルの開発	三野 卓哉	クラウンブリッジ補綴科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
サイバニクスのアプローチによる口腔周囲筋の機能再生	前川 賢治	クラウンブリッジ補綴科	450	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ニューロモジュレーターであるセロトニン動態から見た睡眠時ブラキシズム発症機序解明	水口 一	クラウンブリッジ補綴科	2,400	補 委 文部科学省科学研究費補助金
ヒト歯髄幹細胞による自己免疫性脳炎の治療効果とそのメカニズムの検討	秋山 謙太郎	クラウンブリッジ補綴科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
付着歯肉に特異的に発現する遺伝子・蛋白の同定とその機能解析	熊崎 明日香	クラウンブリッジ補綴科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
口腔インプラント治療を受けた介護高齢者の問題点の抽出ならびにリカバリー法の開発	木村 彩	クラウンブリッジ補綴科	900	補 委 文部科学省科学研究費補助金
周術期における歯科介入効果の検討	水口 真実	クラウンブリッジ補綴科	1,100	補 委 文部科学省科学研究費補助金
変形性関節症の予防や治療を目指した結合組織成長因子発現制御ペプチドの探索と評価	笈田 育尚	クラウンブリッジ補綴科	1,400	補 委 文部科学省科学研究費補助金
新たなリプログラミング法による組織幹細胞作製技術の開発	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
次世代器官再生医療のための基盤技術の開発	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	800	補 委 文部科学省科学研究費補助金
歯乳頭由来幹細胞(SCAP)のニッチの解析による新たな間葉系幹細胞維持機構の解明	園山 亘	クラウンブリッジ補綴科	1,700	補 委 文部科学省科学研究費補助金
発生メカニズムに立脚した生物学的歯根再生技術の開発	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	6,700	補 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 17件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

( 10 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
組織幹細胞を用いた歯関連組織の分化メカニズムの解明とその応用	園山 亘	クラウンブリッジ補綴科	千円 4,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
部位特異的な組織再生誘導を実現する多機能性インプラント	前川 賢治	クラウンブリッジ補綴科	2,250	補 委 文部科学省科学研究費補助金
高頻度睡眠時ブラキシズム患者は、睡眠時高血圧による心臓血管系リスクを有するか	水口 一	クラウンブリッジ補綴科	1,600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
歯科介入型の新たな口腔管理法の開発及び介入効果の検証等に関する研究	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	200	補 委 厚生労働省科学研究費補助金
高齢者の口腔機能の維持・向上法に関する研究	窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	800	補 委 厚生労働省長寿医療研究開発費
顎関節症における筋筋膜疼痛の発症機序を微弱筋活動の長時間計測から解明する	皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	2,470	補 委 文部科学省科学研究費補助金
要介護高齢者の食形態診断をアシストできる咀嚼能力評価法の確立	皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	1,170	補 委 文部科学省科学研究費補助金
咬合支持の喪失ならびにその回復と記憶学習との関連について-酸化ストレスの影響	原 哲也	咬合・義歯補綴科	1,430	補 委 文部科学省科学研究費補助金
発汗波のパターン分析による顎顔面補綴患者の精神的ストレス評価	西川悟 郎	咬合・義歯補綴科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
レーザーアシストエッチングがセラミックスの表面構造特性と接着性に与える影響	丸尾 幸憲	咬合・義歯補綴科	1,300	補 委 文部科学省科学研究費補助金
化学受容性嘔吐誘発域に着目した口腔乾燥症治療薬の作用機序の解明	兒玉 直紀	咬合・義歯補綴科	1,820	補 委 文部科学省科学研究費補助金
咬合拳上ならびに抜歯後の咬合回復に起因する慢性ストレスが高次脳機能に与える影響	黒住 明正	咬合・義歯補綴科	2,600	補 委 文部科学省科学研究費補助金
EphA4の未知なるリガンドの解明と臨床応用への可能性の追及	伊志嶺 知沙	咬合・義歯補綴科	1,430	補 委 文部科学省科学研究費補助金
インプラント-骨界面に発現する細胞外蛋白の三次元的局在と機能解析	玉田 宜之	咬合・義歯補綴科	1,170	補 委 文部科学省科学研究費補助金
構音時の舌後方部挙上運動評価方法の確立のための運動解析	白髭 智子	咬合・義歯補綴科	1,920	補 委 文部科学省科学研究費補助金
歯の接触感覚に関する心理物理学的計測方法の確立と臨床応用	森本 雄太	咬合・義歯補綴科	1,820	補 委 文部科学省科学研究費補助金
口腔乾燥症の新たな治療法確立に向けた唾液分泌中枢制御機構の解明	前田 直人	咬合・義歯補綴科	1,430	補 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 17件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

( 11 / 18 )

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
癌の骨破壊病変に対する新規angiogenin阻害剤による分子標的治療の開発	佐々木 朗	口腔外科(病態系)	千円 2,860	補 委 文部科学省科学研究費補助金
Angiogeninを標的とした新規癌治療薬neamineの口腔癌治療への応用	岸本 晃治	口腔外科(病態系)	1,560	補 委 文部科学省科学研究費補助金
中高年外科的矯正治療術後患者における新たな顎骨治癒評価系の確立	志茂 剛	口腔外科(病態系)	1,950	補 委 文部科学省科学研究費補助金
がん・精巣抗原を基盤とした、日本人に適用性の高い血清診断法の開発	銅前 昇平	口腔外科(病態系)	780	補 委 文部科学省科学研究費補助金
骨折治癒過程における血管新生因子angiogeninの発現と生物学的役割の解析	吉岡 徳枝	口腔外科(病態系)	1,690	補 委 文部科学省科学研究費補助金
AngiogeninのrRNA転写促進作用がリンパ管新生に果たす役割	伊原木 聰一郎	口腔外科(病態系)	1,950	補 委 文部科学省科学研究費補助金
口腔癌の骨浸潤・骨破壊におけるIGF-1Rの役割	栗尾 奈愛	口腔外科(病態系)	1,820	補 委 文部科学省科学研究費補助金
経口投与用ミダゾラム封入ステルス型ナノ薬物キャリアの開発	宮脇 卓也	歯科麻酔科	1,430	補 委 文部科学省科学研究費補助金
レミフェンタニルの抗炎症作用について	前田 茂	歯科麻酔科	1,430	補 委 文部科学省科学研究費補助金
Tmem135変異マウスを用いた中枢の酸化ストレスに伴う神経変性メカニズムの検討	樋口 仁	歯科麻酔科	1,690	補 委 文部科学省科学研究費補助金
改良リポソーム製剤による「苦味薬物」効果的経口投与法の開発	友安 弓子	歯科麻酔科	650	補 委 文部科学省科学研究費補助金
常用薬が静脈麻酔薬プロポフォール薬物の薬物動態および臨床効果に及ぼす影響	丸濱 美菜子	歯科麻酔科	1,040	補 委 文部科学省科学研究費補助金
歯周疾患と糖尿病等との関係に着目した歯科保健指導方法の開発等に関する研究	森田 学	予防歯科学	11,700	補 委 厚生労働省科学研究費補助金
根尖性歯周炎等の口腔内感染巣が易感染性患者の多剤耐性菌感染症に及ぼす潜在的な影響	曾我 賢彦	医療支援歯科治療部	2,210	補 委 文部科学省科学研究費補助金

小計 14件

合計178件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 12 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Murakami K	Department of Medicine and Clinical Science	The effects of telmisartan treatment on abdominal fat depot in patients with metabolic syndrome and essential hypertension; Abdominal fat Depot Intervention Program of Okayama (ADIPO)	Diab Vasc Dis Res 10:93-96,2013
2	Otsuka F	Department of General Medicine	Multifunctional bone morphogenetic protein system in endocrinology	Acta Med Okayama 67:75-86,2013
3	Miyoshi T	Department of Medicine and Clinical Science	GRK-6 mediates FSH action synergistically enhanced by estrogen and the oocyte in rat granulosa cells	Biochem Biophys Res Commun 434:401-406,2013
4	Hagiya H	Department of General Medicine	Systemic varicella-zoster virus infection in two critically ill patients in an intensive care unit	Virol J 10:225,2013
5	Hagiya H	Department of General Medicine	Ineffectiveness of Daptomycin in the treatment of Septic Pulmonary Emboli and Persistent Bacteremia Caused by Methicillin-Resistant Staphylococcus aureus	Intern Med 52:2577-2582,2013
6	Hagiya H	Department of General Medicine	Disseminated Gonococcal Infection in An Elderly Japanese Man	Intern Med 52:2669-2673,2013
7	Hagiya H	Department of General Medicine	Group A streptococcal meningitis in a patient with palmoplantar pustulosis	Intern Med 52:2675-2678,2013
8	Terasaka T	Department of Medicine and Clinical Science	Mutual interaction of kisspeptin, estrogen and bone morphogenetic protein-4 activity in GnRH regulation by GT1-7 cells	Mol Cell Endocrinol 381:8-15,2013
9	Hagiya H	Department of General Medicine	Postpartum breast abscess caused by community-acquired methicillin-resistant Staphylococcus aureus in Japan	Breastfeed Med 9:45-46,2014
10	Hagiya H	Department of General Medicine	Actinomyces meyeri meningitis: the need for anaerobic cerebrospinal fluid cultures	Intern Med 53:67-71,2014
11	Hagiya H	Department of General Medicine	Chromobacterium violaceum nosocomial pneumonia in two Japanese patients at an intensive care unit	J Infect Chemother 20:139-142,2014
12	Terasaka T	Department of General Medicine	Long-term observation of osteomalacia caused by adefovir-induced Fanconi's syndrome	Acta Med Okayama 68:53-56,2014
13	Hagiya H	Department of General Medicine	Acute generalized exanthematous pustulosis caused by daptomycin in a critically ill burn victim	Intern Med 53:511-514,2014
14	Hagiya H	Department of General Medicine	Rhombencephalitis caused by Listeria monocytogenes	Intern Med 53:639-640,2014
15	Minami D	Department of Hematology, Oncology, and Respiratory Medicine	Synergistic effect of olaparib with combination of cisplatin on PTEN-deficient lung cancer cells.	Mol Cancer Res. 2013;11(2):140-148.
16	Kubo T	Department of Hematology	Subpopulation of small-cell lung cancer cells expressing CD133 and CD87 show resistance to chemotherapy.	Cancer Sci. 2013;104(1):78-84.

小計 16件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 13 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
17	Terasaka T	Department of Medicine and Clinical Science	Mutual interaction of kisspeptin, estrogen and bone morphogenetic protein-4 activity in GnRH regulation by GT1-7 cells	Mol Cell Endocrinol. 2013 Dec 5;381(1-2):8-15
18	Tsukamoto N	Department of Medicine and Clinical Science	Melatonin receptor activation suppresses adrenocorticotropin production via BMP-4 action by pituitary AtT20 cells	Mol Cell Endocrinol. 2013 Aug 15;375(1-2):1-9
19	Matsumoto Y	Department of Medicine and Clinical Science	Estrogen facilitates osteoblast differentiation by upregulating bone morphogenetic protein-4 signaling	Steroids. 2013 May;78(5):513-520
20	Akagi S	Department of Cardiovascular Medicine	Prostaglandin i2 induces apoptosis via upregulation of fas ligand in pulmonary artery smooth muscle cells from patients with idiopathic pulmonary arterial hypertension.	Int J Cardiol, 165(3):499-505, 2013
21	Deguchi K	Department of Neurology	A novel useful tool of computerized touch panel-type screening test for evaluating cognitive function of chronic ischemic stroke patients.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 22 (2013) 197-206
22	Deguchi K	Department of Neurology	The efficacy of a novel computerized touch panel-type screening test to evaluate the cognitive function of patients with Parkinson's disease.	Neuroscience and Biomedical Engineering. 1 (2013) 60-64
23	Kono S	Department of Neurology	Tissue plasminogen activator thrombolytic therapy for acute ischemic stroke in 4 hospital groups in Japan.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 22 (2013) 190-196
24	Kono S	Department of Neurology	Intravenous thrombolysis with neuroprotective therapy by edaravone for ischemic stroke patients older than 80 years of age.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 22 (2013) 1175-1183
25	Kono S	Department of Neurology	Reducing hemorrhagic complication by dabigatran via neurovascular protection after recanalization with tissue plasminogen activator in ischemic stroke	J Neurosci Res. 92 (2014) 46-53
26	Kurata T	Department of Neurology	Atorvastatin and pitavastatin reduce oxidative stress and improve IR/LDL-R signals in Alzheimer's disease.	Neurol Res. 35 (2013) 193-205
27	Morimoto N	Department of Neurology	Assessment of swallowing in motor neuron disease and Asidan/SCA36 patients with new methods.	J Neurol Sci. 324 (2013) 149-155
28	Tazawa H	Center for Innovative Clinical Medicine	Advances in adenovirus-mediated p53 cancer gene therapy.	Expert Opin Biol Ther 13(11):1569-1583, 2013
29	Kishimoto H	Division of Surgical Oncology, Department of Surgery	Development of a clinically-precise mouse model of rectal cancer.	PLoS One 8(11):e79453, 2013
30	Tazawa H	Center for Innovative Clinical Medicine	Oncolytic Adenovirus-Induced Autophagy: Tumor-Suppressive Effect and Molecular Basis.	Acta Med Okayama 67(6):333-342, 2013
31	Tazawa H	Department of Gastroenterological Surgery	Chronic inflammation-derived nitric oxide converts human colonic adenoma cells into adenocarcinoma cells.	Exp Cell Res, 319(18):2835-2844,2013

小計 15件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 14 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
32	Tanabe S	Department of Gastroenterological Surgery	Successfully treated pneumatosis cystoides intestinalis with pneumoperitoneum onset in a patient administered $\alpha$ -glucosidase inhibitor.	Acta Med Okayama 67(2):123-128,2013
33	Yagi T	Hepato-Biliary and Pancreatic Surgery	First successful case of simultaneous liver and kidney transplantation for patients with chronic liver and renal failure in Japan.	Hepato Res, doi: 10.1111/hepr.12122 .2013
34	Utsumi M	Department of Gastroenterological Surgery	Risk factors for acute renal injury in living donor liver transplantation: evaluation of the RIFLE criteria.	Transpl Int, 26(8):842-852, 2013
35	Kuise T	Department of Gastroenterological Surgery	Isolation Efficiency of Mouse Pancreatic Stem Cells Is Age Dependent	Cell Medicine 5(2-3):69-73, 2013
36	Sadamori H	Department of Gastroenterological Surgery	Advanced hepatocellular carcinoma with lymph node metastases showing epithelial to mesenchymal transition effectively treated with systemic chemotherapy: Report of a case.	Hepato Res, 43(12):1368-1373, 2013
37	Sadamori H	Department of Gastroenterological Surgery	Living donor liver transplantation to a survivor of liver resection for hepatocellular carcinoma with major portal vein invasion.	Acta Med Okayama, 67(2):105-112,2013
38	Akagi T	Cardiac Intensive Care Unit	What is the best medical management for adult patients with Eisenmenger syndrome?	JC Case 8:e63, 2013
39	Tateishi A	Department of Cardiovascular Surgery	The effect of pulmonary root translocation on the left ventricular outflow tract	Ann Thorac Surg 96:1469-71, 2013
40	Hasegawa K	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Thumb polydactyly with a floating ulnar thumb.	Acta Med Okayama. 2013;67(6):391-5.
41	Hasegawa K	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Phalloplasty with an innervated island pedicled anterolateral thigh flap in a female-to-male transsexual.	Acta Med Okayama. 2013;67(5):325-31.
42	Hasegawa K	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Negative pressure wound therapy incorporating early exercise therapy in hand surgery: bag-type negative pressure wound therapy.	Acta Med Okayama. 2013;67(4):271-6.
43	Komatsu S	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Evaluation of the microvascular research center training program for assessing microsurgical skills in trainee surgeons.	Arch Plast Surg. 2013 May;40(3):214-9.
44	Komatsu S	Department of Plastic and Reconstructive Surgery	Vascularized peripheral nerve grafting promotes myelination of regrowing optic nerve.	Neuroreport. 2013 Jul 10;24(10):566-71.
45	Iwatsuki K	Department of Dermatology	Immunological and structural remodeling in human papillomavirus-induced warts and Bowen disease	Eur J Dermatol, 23(suppl.2):25-30, 2013
46	Iwatsuki K	Department of Dermatology	Current therapy of choice for cutaneous lymphomas: complementary to the JDA/JSCS guidelines	J Dermatol, 41(1):43-49, 2014
47	Yamasaki O	Department of Dermatology	Granulocyte colony-stimulating factor-producing squamous cell carcinoma of the skin associated with epithelial-mesenchymal transition	Eur J Dermatol, 23(3):413-414, 2013

小計 16件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 15 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
48	Hamada T	Department of Dermatology	Successful therapeutic use of targeted narrow-band ultraviolet B therapy for refractory Hailey-Hailey disease	Acta Derm Venereol, 93(1):110-111, 2013
49	Hamada T	Department of Dermatology	Cutaneous lymphoma in Japan: A nationwide study of 1733 patients	J Dermatol, 41(1):3-10, 2014
50	Kamiya K	Department of Dermatology	Case of subepidermal blistering disease with autoantibodies to both laminin- $\gamma$ 1 and laminin- $\alpha$ 3	J Dermatol, 40(6):491-492, 2013
51	Kamiya K	Department of Dermatology	Localized cutaneous argyria in a silversmith	Eur J Dermatol, 23(1):112-113, 2013
52	Kamiya K	Department of Dermatology	A higher correlation of the antibody activities against the calcium-dependent epitopes of desmoglein 3 quantified by ethylenediaminetetraacetic acid-treated enzyme-linked immunosorbent assay with clinical disease activities of pemphigus vulgaris	J Dermatol Sci, 70(3):190-195, 2013
53	Hishikawa T	Department of Neurological Surgery	Clinical and radiographic features of moyamoya disease in patients with both cerebral ischaemia and haemorrhage.	Br J Neurosurg 27: 198-201, 2013
54	Fujii K	Department of Neurological Surgery	The integrin inhibitor cilengitide enhances the anti-glioma efficacy of vasculostatin-expressing oncolytic virus.	Cancer Gene Ther 20(8):437-444, 2013
55	Hishikawa T	Department of Neurological Surgery	Assessment of the difference in posterior circulation involvement between pediatric and adult patients with moyamoya disease.	J Neurosurg 119(4):961-965, 2013
56	Yasuhara T	Department of Neurological Surgery	Regenerative medicine for epilepsy: from basic research to clinical application.	Int J Mol Sci 14:23390-23401, 2013
57	Yasuhara T	Department of Neurological Surgery	Proximal vertebral body fracture after 4-level fusion using l1 as the upper instrumented vertebra for lumbar degenerative disease: report of 2 cases with literature review.	Acta Med Okayama 67(3):197-202, 2013
58	Kameda M	Department of Neurological Surgery	Regenerative medicine for neurological diseases with the use of electrical stimulation.	Regenerative Medicine and Tissue Engineering Jose A. Andrades ed. Intech, Croatia, pp 745-757, 2013
59	Takeda Y	Department of Anesthesiology	In reply; Effects of pharyngeal cooling on brain temperature in primates and humans -A study for proof of principle.	Anesthesiology.118(2)469-470,2013
60	Mizobuchi S	Department of Anesthesiology and Resuscitology	Spinal nerve injury causes upregulation of ErbB2 and ErbB3 receptors in rat dorsal root ganglia.	J Pain Res.6,87-94,2013
61	Tsuge M	Department of Pediatrics	Gene expression analysis in children with complex seizures due to influenza A(H1N1)pdm09 or rotavirus gastroenteritis.	J Neurovirol 2014 Feb;20(1):73-84

小計 14件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 16 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
62	Yamashita N	Department of Pediatrics	Pathogenic mechanisms of influenza A(H1N1)pdm09 infection elucidated on gene expression profiling.	Pediatr Int 2013 Oct;55(5):572-7
63	Tsukahara H	Department of Pediatrics	Prognostic value of brain injury biomarkers in acute encephalitis/encephalopathy.	Pediatr Int 2013 Aug;55(4):461-4.
64	Yashiro M	Department of Pediatrics	Redox-active protein thioredoxin-1 administration ameliorates influenza A virus (H1N1)-induced acute lung injury in mice.	Crit Care Med. 2013 Jan;41(1):171-81
65	Yoshinaga H	Department of Child Neurology	Clinical implications of preceding positive spikes in patients with benign partial epilepsy and febrile seizures.	Brain Dev. 35(4): 299-306, 2013
66	Kobayashi K	Department of Child Neurology	High-frequency EEG oscillations in hyperthermia-induced seizures of Scn1a mutant rats.	Epilepsy Res. 103(2- 3): 161-166,2013
67	Kobayashi K	Department of Child Neurology	Cortical contribution to scalp EEG gamma rhythms associated with epileptic spasms.	Brain Dev. 35(8): 762-770, 2013
68	Kobayashi K	Department of Child Neurology	Questionnaire-based assessment of behavioral problems in Japanese children with epilepsy.	Epilepsy Behav. 27(2): 238-242, 2013
69	Akiyama T	Department of Child Neurology	CSF/plasma ratios of amino acids: reference data and transports in children.	Brain Dev. 36(1): 3- 9,2014.
70	Toda Y	Department of Child Neurology	Effects of intravenous diazepam on high-frequency oscillations in EEGs with CSWS.	Brain Dev. 35(6): 540-547, 2013
71	Matsui Y	Department of Radiology	A case of Acute superior Mesenteric Artery Embolism with Severe Ischemic Liver Injury Successfully Treated by Endovascular Treatment	Acta Med Okayama. 67(6):397-402.2013
72	Hiraki T	Department of Radiology	Lung Cancer Ablation: Complications.	Semin intervent Radiol. 30(2):169- 75.2013
73	Kinami Y	Department of Community Medicine	Efficacy of low-intensity pulsed ultrasound treatment for surgically managed fresh diaphyseal fractures of the lower extremity: multi-center retrospective cohort study	J Orthop Sci 18(3) 410-418,2013
74	Yumoto T	Department of Emergency and Critical Care Medicine	Seat belt injury to the inguinal region presenting with hemorrhagic shock	J Emerg Med 45(6) 828-830,2013
75	Hirai K	Department of Pathophysiology-Periodontal Science	Serum antibody response to group II chaperonin from Methanobrevibacter oralis and human chaperonin CCT.	Pathog Dis, 68(1):12-19, 2013
76	Shimoe M	Department of Pathophysiology-Periodontal Science	Overexpression of Smad2 inhibits proliferation of gingival epithelial cells.	J Periodontal Res, 49(3):290-298, 2013
77	Sato T	Department of Pathophysiology-Periodontal Science	Cytokine expression in human dermal fibroblasts stimulated with eosinophil cationic protein measured by protein array.	Asian Pac J Allergy Immunol, 31(4):271- 276, 2013

小計 16件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 17 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
78	Maekawa K	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	Prospects for research and clinical medicine in sleep bruxism.	Journal of Prosthodontic Research; 57(2): 67-68, 2013.
79	Hara ES	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	miRNA-720 controls stem cell phenotype, proliferation and differentiation of human dental pulp cells	PLoS One; 8(12):e83545,2013.
80	Hara ES	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	A novel vibratory stimulation-based occlusal splint for alleviation of TMD painful symptoms: a pilot study	Journal of Oral Rehabilitation; 40(3):179-184,2013.
81	Noda K	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	Identification of risk factors for fracture of veneering materials and screw loosening of implant supported fixed partial dentures in partially edentulous cases.	Journal of Oral Rehabilitation; 40(3):214-220,2013.
82	Ono M	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	WISP1/CCN4: A potential target for inhibiting prostate cancer growth and spread to bone.	PLoS One; 8(8):e71709,2013.
83	Ono M	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	Regeneration of calvarial defects with Escherichia coli-derived rhBMP-2 adsorbed in PLGA membrane.	Cells Tissues Organs; 198(5):367-376,2013.
84	Yamazaki S	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	Retrospective comparative ten-year study of cumulative survival rates of remaining teeth in large edentulism treated with implant-supported fixed partial dentures or removable partial dentures.	Journal of Prosthodontic Research; 57(3):156-161,2013.
85	Yamazaki S	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	Retrospective investigation of the remaining teeth status of patients with implant-supported fixed partial dentures in unilateral free-end edentulism.	Journal of Prosthodontic Research; 57(4):162-164,2013.
86	Yamazaki S	Department of Oral Rehabilitation and Regenerative Medicine	A retrospective comparative 8-year study of cumulative complications in teeth adjacent to both natural and implant-supported fixed partial dentures.	The International Journal of Prosthodontics; 26(3):260-264,2013.
87	Oki K	Department of Occlusal and Oral Functional Rehabilitation	Dependence of psychophysical threshold on rate of applied force to the upper first molar in humans.	Archives Oral Biology 2013 May;58(5):474-81.
88	Nishigawa G	Occlusion and Removable Prosthodontics	New theoretical model to measure pressure produced during impression procedure for complete dentures—Visual inspection of impression material flow.	Dental Materials 29(5), 530-534, 2013.
89	Okui T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery	Novel HSP90 Inhibitor NVP-AUY922 enhances the anti-tumor effect of temsirolimus against oral squamous cell carcinoma	Current Cancer Drug Targets, 13(3):289-99,2013
90	Horikiri Y	Department of Oral and Maxillofacial Surgery	Sonic Hedgehog Regulates Osteoblast Function by Focal Adhesion Kinase Signaling in the Process of Fracture Healing	PLoS One, 8: e76785,2013

小計 13件

(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 2 論文発表等の実績

#### (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

( 18 / 18 )

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
91	Shimo T	Department of Oral and Maxillofacial Surgery	Severe gummy smile with class II malocclusion treated with LeFort I osteotomy combined with horseshoe osteotomy and intraoral vertical ramus osteotomy.	Acta Med Okayama,67:55-60, 2013
92	Ishihara Y	Department of Orthodontics	Indirect usage of miniscrew anchorage to intrude overerupted mandibular incisors in a Class II patient with a deep overbite.	Am J Orthod Dentofacial Orthop, 143 (4 Suppl): S113-S124, 2013.
93	Yanagita T	Department of Orthodontics	Severe open bite due to traumatic condylar fractures treated nonsurgically with implanted miniscrew anchorage.	Am J Orthod Dentofacial Orthop, 143 (4 Suppl): S137-S147, 2013.
94	Murakami T	Department of Orthodontics	Relationship between orthodontic expertise and perception of need for orthodontic treatment for mandibular protrusion in Japan.	Acta Med Okayama, 67 (5): 277-283, 2013.
95	Yamanaka R	Division of Hospital Dentistry, Central Clinical Department	Occlusion and weight change in a patient after esophagectomy: success derived from restoration of occlusal support.	International Journal of Allergy and Immunology 2013 Nov-Dec;26(6):574-6. doi: 10.11607/ijp.3622.

小計 5件

合計 95件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

#### (2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 申請等の手順書, 実施計画書作成手順書, 同意説明文書作成手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 マネジメントポリシー, 委員会構成, 相談受付	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 4 回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 3 回
・ 研修の主な内容 臨床研究デザインと生物統計学, 臨床研究の信頼性確保と利益相反管理, 医療機器及び新医薬品の審査の実際	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。



(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各学会による認定医・専門医等の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を研修登録医として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

2 研修の実績

研修医の人数	236人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
大塚 文男	総合内科	科長・教授	22年	
山本 和秀	消化器内科	科長・教授	36年	
谷本 光音	血液・腫瘍内科	科長・教授	38年	
木浦 勝行	呼吸器・アレルギー内科	科長・教授	31年	
和田 淳	腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科	科長・准教授	22年	
伊藤 浩	循環器内科	科長・教授	31年	
阿部 康二	神経内科	科長・教授	35年	
藤原 俊義	消化管外科	科長・教授	29年	
八木 孝仁	肝・胆・膵外科	科長・教授	31年	
三好 新一郎	呼吸器外科	科長・教授	35年	
土井原 博義	乳腺・内分泌外科	科長・教授	32年	
公文 裕巳	泌尿器科	科長・教授	36年	
佐野 俊二	心臓血管外科	科長・教授	37年	
野田 卓男	小児外科	科長・教授	30年	
尾崎 敏文	整形外科	科長・教授	27年	
木股 敬裕	形成外科	科長・教授	30年	
岩月 啓氏	皮膚科	科長・教授	36年	
白神 史雄	眼科	科長・教授	34年	
西崎 和則	耳鼻咽喉科	科長・教授	35年	
内富 庸介	精神科神経科	科長・教授	30年	
伊達 勲	脳神経外科	科長・教授	31年	
森松 博史	麻酔科蘇生科	科長・教授	20年	
森島 恒雄	小児科	科長・教授	35年	
吉永 治美	小児神経科	科長代行・准教授	35年	
小田 慈	小児血液・腫瘍科	科長・教授	38年	
平松 祐司	産科婦人科	科長・教授	37年	
金澤 右	放射線科	科長・教授	33年	

氏家 良人	救急科	科長・教授	39年
柳井 広之	病理診断科	科長・教授	18年
千田 益生	総合リハビリテーション部	部長・教授	31年
鳥井 康弘	総合歯科	科長・教授	32年
吉山 昌宏	むし歯科	科長・教授	30年
高柴 正悟	歯周科	科長・教授	26年
窪木 拓男	クラウンブリッジ補綴科	科長・教授	28年
皆木 省吾	咬合・義歯補綴科	科長・教授	36年
飯田 征二	口腔外科（再建系）	科長・教授	28年
佐々木 朗	口腔外科（病態系）	科長・教授	33年
浅海 淳一	歯科放射線・口腔診断科	科長・教授	30年
宮脇 卓也	歯科麻酔科	科長・教授	26年
上岡 寛	矯正歯科	副科長・准教授	25年
森田 学	予防歯科	科長・教授	28年
仲野 道代	小児歯科	科長・教授	21年
江草 正彦	スペシャルニーズ歯科センター	センター長・教授	26年

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
各部署、チーム等において、多職種連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 【対象外】
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 楨野 博史
管理担当者氏名	医療情報部長 合地 明, 放射線部長 金澤 右, 医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 岩月 啓氏, 薬剤部長 千堂 年昭, 看護部長 前川 珠木, 総務課長 田口 博之, 医事課長 木村 勝弘, 各科診療科長・中央診療施設長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録			
	病院日誌	総務課	カルテ等病歴資料は、外来・入院別に1患者1ファイル方式で、エックス線写真は、1患者1ファイル方式で保管している。 なお、カルテ等病歴資料はコンピュータによる集中管理を行っている。 また、診療録の病院外への持ち出しは、禁止している。
	各科診療日誌、手術記録、看護記録、検査所見記録、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	各診療科・中央診療施設 医療情報部 医事課	
	処方せん	薬剤部	
	エックス線写真	放射線部	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の体制第一の確保各号状及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	総務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	総務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課 医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課 医事課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部 医事課 総務課
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	総務課
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	の	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	二十三	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	総務課
	第一項	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器安全管理室
	第一号	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器安全管理室
に掲げる	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器安全管理室 医療安全管理部	
体制の			
確保の			
状況			

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 榎野 博史	
閲覧担当者氏名	病院長室長 藤原 浩一, 医事課長 木村 勝弘	
閲覧の求めに応じる場所	小会議室	
閲覧の手続の概要		
閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続きを行う。 ① 開示請求の受付 ② 開示等の検討 ③ 開示等の決定・通知 ④ 開示の実施		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>安全管理に関する基本的な考え方</li><li>医療事故発生時の対応方法</li><li>各部門ごとの安全管理マニュアル</li><li>患者からの相談への対応に関する基本方針 他</li></ul></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医療事故の防止及びその対策に関すること</li><li>医療事故防止マニュアルの作成に関すること</li><li>医療事故防止の教育・研修に関すること</li><li>その他医療事故の防止に関すること</li></ul></li></ul>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>「心肺蘇生法」</li><li>「プレアボイド報告から見える医薬品の適正使用～病棟薬剤師の視点～」 「抗菌薬の適正使用」(医療安全・院内感染対策合同)</li><li>「MR I 検査を安全に行うために」</li></ol></li></ul>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機関内における事故報告等の整備 ( (有)・無 )</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>マニュアルの整備</li><li>インシデントレポートシステム</li><li>リスクマネジャーの配置</li><li>医療事故等調査委員会</li><li>医療安全管理者の巡視による改善策実施状況の確認</li></ul></li></ul>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有) (4名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (1名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>所属職員： 専任 ( 4 ) 名 兼任 ( 1 5 ) 名</li><li>活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医療事故防止委員会の運営に関すること</li><li>医療事故防止対策の立案に関すること</li><li>医療事故・ニアミス報告の分析に関すること</li><li>リスクマネジャーとの連絡調整に関すること</li><li>安全管理に関する教育・研修の企画運営に関すること</li><li>医療事故相談に関すること</li><li>その他医療事故の防止、医療の安全性の向上・医療の質の向上に関すること</li></ul></li></ul>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 指針の主な内容<ol style="list-style-type: none"><li>1) 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2) 委員会について</li><li>3) 感染制御部の業務内容</li><li>4) 院内感染対策のための職員教育及び研修</li><li>5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針</li><li>7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li><li>8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針</li></ol></li></ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 4 8 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 感染予防対策委員会 1回/月 合計12回</li><li>・ リスクマネジャー会議（この中でICT全体会議と医療安全会議を行う） 1回/月 合計12回</li><li>・ 感染制御部職員会議 1回/月 合計12回</li></ul>以上 3 委員会は、それぞれ連携して以下の活動をする。<ol style="list-style-type: none"><li>① 耐性菌サーベイランス，侵襲的処置別感染症サーベイランス</li><li>② 感染予防対策立案と指導，マニュアルの管理</li><li>③ 抗菌薬使用の管理</li><li>④ I C T（リスクマネジャーがICTメンバーを兼ねる）との連携</li><li>⑤ 重症感染症，特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション</li><li>⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営</li><li>⑦ 針刺し，体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導</li><li>⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導（結核，流行性疾患など）</li><li>⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導，環境整備に関する管理と指導</li><li>⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与</li></ol></li><li>・ 看護部感染対策委員会 1回/月 合計12回<ul style="list-style-type: none"><li>手指衛生のコンプライアンスの測定と改善</li><li>感染防止の視点からの看護手順の作成</li><li>環境整備の状況把握と指導</li></ul></li></ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 1 8 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 全職員対象院内感染対策講習会 3回/年(①，②は同じ内容で2回ずつ，③は1回，計5回)<ol style="list-style-type: none"><li>① 針刺し事故防止について，結核の院内感染予防とトリージ診療，スタンダードプレクション</li><li>② 海外旅行と感染症（医療安全管理部と合同）</li><li>③ 肺炎の治療と予防</li></ol></li><li>2) 新規採用者研修 1回</li><li>3) 感染対策地域連携講演会「結核の診断と治療」 1回</li><li>4) 主に看護師対象感染防止技術研修会 10回 〈内容〉感染予防対策に関する基本的な事項，Device関連の感染予防策，流行性疾患対策など</li><li>5) 抗菌薬使用に関する勉強会 1回</li></ol></li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無)</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ その年のスローガンを決め，強化をする。 平成 2 5 年度は，ラウンドの強化！抗菌薬管理の強化をスローガンとし，病棟ラウンドの強化を図った。</li></ul></li></ul>	



(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容： 平成 25 年 4 月 新規採用職員オリエンテーション - 医療事故防止について(薬剤部) -	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( (有)・無 ) ・ 業務の主な内容： ・ 医薬品の採用・購入に関すること ・ 医薬品の管理に関すること (麻薬を含む。) ・ 投薬指示・調剤に関すること ・ 患者への薬学的管理業務に関すること ・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関すること ・ 他施設 (病院, 薬局等) との連携に関すること ・ 病棟における医薬品の管理に関すること  実施状況については、業務手順書に基づき、各担当部署においてチェックリストを作成し、定期的(月1回程度)に実施状況の確認を行った。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( (有)・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 毎月、業務手順書に基づき、薬品情報室にて収集した情報を、情報誌(DI News)に掲載し、各診療科、中央診療施設、看護部に配布し情報提供を行っている。 また、安全性情報はmailにて配信しており、特に重篤な情報は処方医宛に配信している。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 9 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 定期研修<ol style="list-style-type: none"><li>1. 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講(学会主催のもの)</li><li>2. 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について</li><li>3. 血液浄化装置： 同 上</li><li>4. 除細動装置： 同 上</li><li>5. 閉鎖式保育器： 同 上</li><li>6. MR I 装置の安全性</li><li>7. X線撮影装置の安全管理</li><li>8. 放射線治療装置の安全管理</li><li>9. R A L S 緊急時マニュアル (医師, 放射線技師, 看護師対象)</li><li>10. R A L S 線源交換及び線源強度公正方法 (放射線技師対象)</li></ol></li><li>・ 新しい医療機器導入時の研修<ol style="list-style-type: none"><li>1. 人工呼吸器：機器の取扱い説明, 導入方法</li><li>2. 間欠的空気圧迫装置：機器の取扱い説明</li><li>3. オープン型MR I 装置</li><li>4. 自動免疫測定装置</li><li>5. フローサイトメーター</li><li>6. 生化学自動分析装置</li><li>7. 自動血球測定装置</li></ol></li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ○有 ・ 無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 人工心肺装置：定期点検(年1回), 日常点検(始業点検/終業点検)</li><li>2. 人工呼吸器：定期点検(年2回), 使用前点検</li><li>3. 血液浄化装置：定期点検(年2回), 使用前点検</li><li>4. 除細動装置：定期点検(年2回)</li><li>5. 閉鎖式保育器：定期点検(年2回)</li><li>6. X 線 装 置：定期点検(機種により年1～4回), 使用前点検</li><li>7. 診療用放射線照射装置：定期点検(年2回)</li></ol></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ○有 ・ 無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人工呼吸器装着患者搬送中の人工呼吸器バッテリーアラームに対する対策の実施</li><li>・ 老朽化による機器の更新(間欠的空気圧迫装置)</li><li>・ バッテリ関連トラブルに対する対策の実施(輸液ポンプ)</li><li>・ 圧フィルターの他製品への交換(持続血液濾過透析装置)</li></ul></li></ul>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期  日本医療機能評価機構による病院機能評価を受審予定：平成27年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 情報発信の方法、内容等の概要  ・ ホームページ及び定例記者発表等を通じたの情報発信 ・ 市民等を対象とした公開講座等の開催	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要  ・ 複数の診療科で構成する中央診療施設の設置 ・ 診療科等の連携によるセンターの設置	